

■意見概要と対応方針（第２回徳島県海岸保全基本計画（改定）検討会）

資料名	頁	意見概要	対応方針
計画素案 3 沿岸共通	讃岐阿波 P. 39 紀伊水道西 P. 42 海部灘 P. 39	・砂浜の中には、自然のプロセスによって砂が 10m 程度の高さに盛り上がり、それ自体が堤防と同等の防護機能を果たすケースがある。 ・50 年後、100 年後を見据えた際、単にコンクリートの堤防を作るのではなく、砂が溜まったり抜けたりする「自然の動き」を許容し、それを中長期的なシミュレーション等で評価したうえで、背後の松林などの「緑の防潮堤」と一体的に防護施設として位置づける「自然のプロセスを生かしたインフラのあり方」を検討してはどうか。	・現時点では、全国的に砂浜や砂丘を防護施設として評価して管理している例はないが、自然の力を利用・共存する形をとることで、結果的に防災的なインフラとしても、生態系や生物多様性を守る「緑のインフラ」としても機能するような研究やモニタリングなど最新の知見の情報収集などに努め、関係機関や団体と連携し、その取組が途切れることなく次の世代に引き継がれるよう、長期的な視点で検討して参ります。
計画素案 3 沿岸共通	讃岐阿波 P. 24 紀伊水道西 P. 25－26 海部灘 P. 13、23	・特にどの資料というわけではないが、全般的に、漁業振興に問題のない記載方としてほしい。	・海岸保全施設の整備において、漁船の安全な航行や、漁港施設へのアクセスなど、日常の漁業活動に配慮するよう努めて参ります。
計画素案 3 沿岸共通	讃岐阿波 P. 22 紀伊水道西 P. 23 海部灘 P. 23	・地域住民だけでなく、土地に不慣れな観光客や外国人、小さな子どもなど、多様な利用者が避難情報等を直感的に理解できるよう、多言語表記や「やさしい日本語」を用いた案内板の整備とするのはどうか。	・高齢者や障がい者に加え、土地に不慣れな観光客や外国人も含めた多様な利用者を対象に、施設の利用面やアクセス面、さらに、災害時の対応に応じた情報サインが重要と考えている。 ・「自然環境や景観、安全性の確保を基本とし、<u>多様な利用者が避難情報等を直感的に理解できるよう、多言語表記や「やさしい日本語」を用いて、</u>わかりやすいアクセス道路のルートや避難情報等を表示する案内板を整備することにより、利便性や安全性の向上、さらに海岸部での利便施設づくりに努める。」（計画文に追記（赤字））